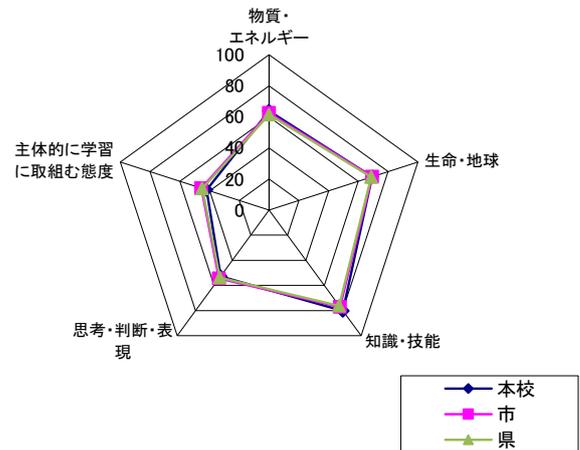


# 宇都宮市立桜小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.8	62.5	61.5
	生命・地球	69.2	69.2	68.6
観点	知識・技能	80.3	77.2	76.3
	思考・判断・表現	52.8	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	42.0	45.5	44.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○ほとんどの内容で、正答率が県の正答率とほぼ同じか上回っている。特に音の性質についての設問は、両方とも正答率が県の正答率を上回っている。</p> <p>○回路についての理解を問う設問の正答率は、県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>●鉄くぎがどのような磁石となるか指摘する問題の正答率が県の正答率を大きく下回っている。また、磁石に関する他の問題についても、県の正答率とあまり変わらないものの、正答率が40パーセント以下と低い。</p>	<p>・実験活動を積極的に取り入れてきたことが効果的だったと考えられるので、今後も実験活動を積極的に取り入れ、実験結果を考察し、まとめて振り返るというサイクルでの授業を継続していく。</p> <p>・「磁石に引き寄せられるもの」と「電気を通すもの」の性質の混同がみられるので、問題練習などを通して復習し、理解を深める。</p>
生命・地球	<p>○虫眼鏡の使い方についての設問の正答率が、県の正答率を大きく上回っている</p> <p>●こん虫の育ち方についての設問や、体のつくりからこん虫とそうでないものを見分ける設問の正答率が、県の正答率を下回っており、生き物の体の仕組みや成長の様子についての理解に課題がある。</p> <p>●太陽の動き方から、影のつき方を指摘する問題の正答率が県の正答率を下回っている</p> <p>●日なたと日かげの地面の温度の様子や太陽の動き方と影のつき方の理解をもとに考える活動に課題が見られる。</p>	<p>・物事の事象を、視点を明確にして細かく観察し、考察して確かめ、まとめて振り返るという学習のサイクルを重視してきたが、今後も継続して取り入れていく。</p> <p>・観察の結果を比較する、データを集めて傾向をつかんでいくなどの考察方法を授業で指導し、児童が自ら実験結果について考察に取り組んでいけるようにしていく。</p> <p>・こん虫についての学習に関して、問題練習などを通して再確認し、理解が深められるようにする。</p> <p>・太陽の動きなど、観察に時間がかかったり、観察が困難だったりするものに関しては、ICTを積極的に活用するなどして、理解を深められるようにする。</p>